

SUPPORTER'S SELECTION

サポーターの皆さんのオススメ本です。本選びの参考にどうぞ♪



豊橋

保田 咲乃さん
オススメ

『ジャッジメント』
小林由香 著 (双葉社 2016)
豊図開架 913.6.Ko12

目には目を歯には歯を。犯罪者に対し、もし被害者の手で復讐が許されていたら？復讐法とは、犯罪者に被害者が受けた被害内容と同じことを行い合法的に刑罰として執行できるものである。そんな復讐法が施行された日本のお話。被害者にとって復讐は救いとなるのか。あなたは復讐法による刑罰を選びますか？刑に立ち会う監視官の主人公とともに、悩まされ、考えさせられる作品です。

豊橋

池田 小春さん
オススメ

『新選組血風録』
司馬遼太郎 著 (文藝春秋 1972)
名図開架 918.68.Sh15.7 外部書庫 918.68.Sh15.7
豊図第2書庫 918.68.Sh15.7

新選組の歴史小説、といえます司馬遼太郎の『燃えよ剣』をイメージする方も多いいのではないのでしょうか。「新選組血風録」は、新選組の隊士一人一人にフォーカスした短編集です。一話が比較的短く、様々な隊士が登場するので、歴史に詳しくなくても気軽に読め、更に色々な新選組作品を読んでいくきっかけにもなる一冊です。教科書の上で、名前しか知らなかった人物が読書を通して生き生きと動きだす。そんな体験を試してみませんか？

豊橋

藤戸 美守さん
オススメ

『ののほな通信』
三浦しをん 著 (KADOKAWA 2018)
豊図開架 913.6.Mi67

正対的な性格だが親友である「のの」と「ほな」。しかし、ののはやがてほなにただの友達とは異なる感情を抱くようになる。未熟な二人の純粋な恋は、大人になるにつれてどう変わっていったのでしょうか。二人の往復書簡のみで物語が構成されている点が面白く、感情移入してしまう魅力的な作品です。手紙によって打ち明けられる秘密や本音。誰かを想い記した手紙は、繋がっていくようにする気持ちの可視化。残酷で美しいこの物語を読んだ後、貴方も大切な誰かに手紙を書きたくなるかもしれません。

豊橋

小川 奏さん
オススメ

『ヒトデ学：棘皮動物のミラクルワールド』
本川達雄 編著 (東海大学出版会 2001)
豊図開架 484.9.Mo85

皆さんはヒトデを知っていますか？夏が近づくと雑貨屋にはヒトデをモチーフとした置物が並び、水族館ではよくタッチプールで見かけます。触れたことがある方も多いいのではないのでしょうか。しかし肝試しをするために美樹、和彦、祐一は訪れ、肝試しをすることに。しかし肝試し後、美樹は「助けて」「ここから出して」とうわ言をつぶやくながら眠り続けましょう。そんな彼女を心配して友達の小沢晴香は超能力のようなものを使えるという斎藤八雲に依頼を持ち掛ける。調査を通して八雲と晴香の関係に変化が!?一巻から最終巻までドキドキを更新しながら読める作品です。

豊橋

八木 菜里さん
オススメ

『心霊探偵八雲』
神永学 著 (文芸社 2004~2006)
豊図開架 913.6.Ka37.1~6

その大学のキャンパスの外れにある雑木林の中に昔から幽霊が出る噂されているコンクリート壁造りの平屋の建物があった。そこに暇つぶしをするために美樹、和彦、祐一は訪れ、肝試しをすることに。しかし肝試し後、美樹は「助けて」「ここから出して」とうわ言をつぶやくながら眠り続けましょう。そんな彼女を心配して友達の小沢晴香は超能力のようなものを使えるという斎藤八雲に依頼を持ち掛ける。調査を通して八雲と晴香の関係に変化が!?一巻から最終巻までドキドキを更新しながら読める作品です。

名古屋

水野 花音さん
オススメ

『ポイズンドーター・ホーリーマザー』
湊かなえ 著 (光文社 2016)
豊図開架 913.6.Mi39

親子、同僚、友人、姉妹…。人の心を醜いほどに浮き彫りにして描く人間関係と視点を変えることで見えてくる全く異なる想いと事実。予想を裏切ってくる湊かなえらしい逆転劇に必ず驚愕するだろう。読み進める手が止まらなくなる傑作短編集ミステリー六編。私のお気に入りには、脚本家を目指す作家三人の物語「ベストフレンド」。嫉妬や羨み、心強い友情、清々しくも切ないラストに涙する。

豊橋

後藤 綾里さん
オススメ

『ステップファザー・ステップ』
宮部みゆき 著 (講談社 1993)
名図開架 913.6.Mi71

あなたが考える「家族」とはどのような存在ですか？ある日、中学生の双子の兄弟の下に落ちてきたのはプロの泥棒だった！双子は泥棒を助け、自分達の父親になることを要求する。戸惑いながらも少しずつ心の距離が縮まっていく三人。この歪な家族の最終的な関係性は…。普通とは、家族とは何なのかを、ユーモアを交えながら描かれる、少し変わったハートフルストーリー。血の繋がりを超える絆を感じることができる一冊です。

豊橋

坂田 稀梨さん
オススメ

『鏡じかけの夢』
秋吉理香子 著 (新潮社 2021) [新潮文庫]
名図文庫 913.6.A38

願いを叶えると呼ばれる1枚の鏡。持ち主たちは願いが叶えば叶うほど、どんどん鏡にのめり込んでしまいます。そして、5つの短編集を読み進めることで鏡の本当の力や人間の欲深さが見えてきます。鏡に魅入られた持ち主たちはどのような運命を迎えてしまうのでしょうか。作者が得意とする後味が悪くなるような物語も見所ですが、時代背景が戦前から終戦直後であるところも見所です。

豊橋

櫻井 萌絵さん
オススメ

『三千元の使いかた』
原田ひ香 著 (中央公論新社 2021) [中公文庫]
豊図開架 913.6.H32

この本は経済格差が広がる世界で、自分らしく生きると言うことはどういったことなのかを深く考えさせられる本です。三千元の使い方で、その人の生き方を知る。人は誰でも、自分と他人との暮らしを比べ、妬みや虚しさを抱きます。しかし、人はそのような感情を抱いていても、幸せになんてなれません。人は人、自分は自分。と自分自身を納得させることができれば、人は幸せなのですか。あなたは、三千元をどう使いますか？

名古屋

西村 咲良さん
オススメ

『異邦人』
カミュ 著 窪田啓作 訳 (新潮社 1995) [新潮文庫]
名図文庫 953.C14

母の死の翌日海浴に行き、女と映画をみて笑いころげ、友人の女入りに関係して人を殺害し、動機について「太陽のせい」と答える。通常の論理的な一貫性が失われている男ムルソーを主人公に、理性や人間性の不合理を追求した話です。ヨーロッパ文学という少し固い印象を持っている方も多いと思いますが、この異邦人は読みやすいです。原作に忠実な映画化もされているので併せて読むのもおすすめです！

名古屋

石原 東生子さん
オススメ

『東京近江寮食堂』
渡辺淳子 著 (光文社 2017) [光文社文庫]
名図開架 913.6.W46

定年退職を間近に控えた主人公の妙子は、10年前に消えた夫の行方を探すために有給休暇を使って東京までやってきます。ひょんなことから、妙子は滋養泉の宿泊施設である東京近江寮の食堂で、しばらく料理を作ることに。個性豊かな人々と出会い、妙子の心も次第に解れていきます。食事をするごとの大切さや人々の優しさや温かさがじんわりと心に沁み込む物語で、美味しそうな郷土料理もでてきてほっこりできる一冊です。

名古屋

石崎 真羽さん
オススメ

『地底の魔術王』
江戸川乱歩 著 (新潮社 2022) [新潮文庫]
名図文庫 913.6.E24

江戸川乱歩の代表作、少年探偵団シリーズ。物語は少年らの前に現れた怪しげな男、魔法博士の手法からはじまる。博士の手法を見た少年らは数日後、博士に誘われ森の奥の洋館を訪れる。そこで行われた魔術ショーの最中に、少年の1人と博士が突如として姿を消してしまう…。不気味な魔法博士、それに立ち向かう明智小五郎と少年探偵団。彼らが繰り広げる奇術や密室トリック、明智小五郎の鮮やかな推理に注目です。

豊橋

村木 梨紗さん
オススメ

『犬と私の10の約束』
川口晴 著 (文藝春秋 2007)
豊図開架 913.6.Ka92

犬を飼うときには、10の約束をしなければいけません。あかりの家に迷い込んできた子犬ソックスは、あかりにとってかけがえのない存在になっていきます。亡くなる直前の母親からあかりは10の約束を教わりましたが、あかりが成長して恋や将来の目標に夢中になってくると、段々とソックスの存在を邪魔に思い、次第に心が離れていきます。果たしてあかりは10の約束を守るのか…。命の尊さを再確認できるあたたかい本です。

豊橋

鈴木 英玲菜さん
オススメ

『麦本三歩の好きなもの』
住野よる 著 (幻冬舎 2019)
名図開架 913.6.Su63

三歩の日常にドラマチックなことなんて起こらない。この本は、図書館で働く麦本三歩の「日常」を覗くような短編集です。この物語の面白さは、三歩の容姿や三歩以外の登場人物の名前などが明記されていない点にあります。登場人物の特徴が読み手側の想像に任せられるということもあり、他の本に比べて感情移入しやすいと感じます。共感する場面が沢山あり、日々の疲れを癒してもらえ面白さがある本です。ホッとのお話好きな人にオススメです。

豊橋

佐藤 唯華さん
オススメ

『夜のピクニック』
恩田陸 著 (新潮社 2004)
豊図開架 913.6.065 名図開架 913.6.065

2004年に本屋大賞を受賞した本作は、高校生活最後の伝統行事「歩行祭」を通して、2人の主人公とその仲間たちの友情や恋愛が描かれています。読むと登場人物たちと一緒に自分も歩いているように思えてきて、高校生の頃に戻ったように感じられると思います。視点人物が何度か入れ替わり、主人公2人が同じ時間をどう過ごしていたかがわかるようになっていきます。また、登場人物の会話リアリティで、主人公たちの考えていることにきっと共感できる本です。是非読んでみてください。

名古屋

山本 蒔さん
オススメ

『言語沼：言語オタクが友だちに700日間語り続けて引きずり込んだ』
水野太貴 著 (あさ出版 2023)
名図開架 810.4.H89

ラジオ番組のような軽快なトーンで、著者は言語の起源からダジャレや方言の楽しみ、言葉の持つ力について語ります。言語学の知識を楽しみながら深め、日常の言葉遣いに新たな視点を持つことができる一冊です。

名古屋

黒柳 諒介さん
オススメ

『テレビ報道の正しい見方』
草野厚 著 (PHP研究所 2000) [PHP新書]
名図開架 699.64.Ku84 外部書庫 699.64.Ku84

私たちはテレビ番組に対して盲信があるのではないかと。例えば、「テレビで言っていたから〜」といった会話を一度はしたことがあるだろう。しかし、テレビで言ったことが本当に真実なのだろうか。いろいろなことに対する情報源としてテレビに大いに依存するにしてもそこに間違いや欠陥はあるかもしれないという「疑い」を持つことは重要ではないだろうか。